

授業科目 言語聴覚診断学演習

【担当教員名】 磯野信策	対象学年	3	対象学科	言語
	開講時期	前期	必修・選択	必修
	単位数	1	時間数	15

【<概要>又は<一般目標：GIO>】

言語聴覚障害診断学で学んだ各種の評価・診断の理論と方法を、この演習を通じて実際に実施できるようにする。

【<学習目標>又は<行動目標：SBO>】

1. 選別検査および行動観察ができる。
2. 問診を実施できる
3. 他の施設や診療科との連携をとるために必要な依頼状や照会状等の文書を作成することができる。
4. 音声言語の聴覚判定ができる。
5. 器機を用いた一般的な評価と訓練を実施できるとともに、対象者の問題に応じた評価・訓練方法を計画して実施できる。

回数	授業計画又は学習の主題	SBO	
		番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
1~5	選別検査： 「ことばのテスト絵本」を実施できる。 検査バッテリーの立案： 種々の情報を基に検査バッテリーを立案できる。 行動観察： 行動観察を行い、結果をまとめることができる。 問診 主訴、生育歴、現病歴、既往歴等の聴取ができる。 依頼状や照会状等の作成方法を知り、実際に書くことができる。	1	小グループで互いに対象者にみた
		1	てた演習。
		1	レポート提出
		2	
		3	
6	音声言語の聴覚判定： 録音テープを聴いてスピーチの問題を正しく指摘できる。	4	実習
7	器機を用いた評価法および訓練法 ①Nasometer II ②Flow Nasality Graph ③Milti Speech ないし CSL ④Visi-Pitch III	5	マニュアルに従った操作の実習を行い、これを用いた各種実験、評価・訓練計画立案に関してレポートを提出する。

【使用図書】	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格・その他>
教科書				
参考書	言語聴覚療法臨床マニュアル	日本言語療法士協会編著	協同医書出版	1992年・9785円
	声の検査法 基礎編、臨床編	日本音声言語医学会編	医歯薬出版	1999年・4400円、5400円
	言語治療マニュアル	福迫陽子他編	医歯薬出版	1995年・9600円
その他の資料	随時配布する。			

【評価方法】 出席状況とレポートで評価する	【履修上の留意点】 第1回から第4回までの小グループによる演習での欠席は認めない。
--------------------------	--

言語聴覚学科 専門